

四月二六日

秩父から持ち帰った山吹の小枝がテーブルの上に満開の花を咲かせている。生垣近くに数年前植えたのだが、道の側に花を咲かせていたのが年々、内へ、つまり庭側にだけ花をつけるようになったのを少しばかり切ってテーブルに生けたのが見事。屋上菜園に生ゴミを埋める。連休には種をまこう。

二十一時前世田谷村に戻る。今日は午前学部レクチャー。午後調布B邸引渡し。夕方、新大久保近江屋で 社長若松氏と会食であった。長い間暖めていた一日一プロジェクトという思い付きがはつきりした形で浮かび上がってきたが、流石にこれは不可能そうだ。アイデアはその速力で浮かぶだろうが、他人様に見ていたくのは、やはりそれなりの時間がかかると計算した。一週間一プロジェクトをとり敢えず半年間続けてみるのを決心する。マ、自分にどれ程の力が残されているのかを赤裸々にチェックしてみるのも良いだろう。ダメなら、もうダメなのだ。半年間 走り続ける事が出来たら、一冊の本にまとめてみたい。

ホームページは私の世田谷村日記、カバールーム、そして一週一件プロジェクトの三軸にする。これ位が能力の限界であろう。昨日、結城登美雄とこれからは関節の力をボキリ、ボキリと抜いて、脱力してゆこうと話し合ったばかりなのに、いきなりそれとは正反対の決断に辿り着いてしまったようだ、これが私の地なんだろうと思う。ジタバタ走り続けるのが不幸せなのは解ってい

るのだが、矢張り抜き差しならぬ好みなのだ。だからそれに自然に従ってゆくのが好いと思ひ知る。

一週一件プロジェクト第一回は北海道十勝原野への銀河鉄道計画とする。二回は東京新宿への「不安の素ミュージアム」でやってみる。三回は千葉県、真間山へのソバ屋の提案。四回は、まだ内緒という事にする。

四月二十七日

屋上で生ゴミ埋め、草取りしながら一週一案の構想をまとめる。一時間程を屋上の菜園で過ごす。日射しが強い。午前中明日のシンポジウムの準備で、いささかのつけ焼き刃的読書を試みる。いささかジタバタしたが結局、ジタバタしても仕方ない、成り行きに任せようという事にした。